

東中病診連携室だより



平成18年 8月 No, 17

東北中央病院ホ - ムペ - ジ <http://www.tohoku-ctr-hsp.com/>

理念 「心温かい 信頼の医療」 東北中央病院長 堀川秀男

《 大腸ESDについて 》

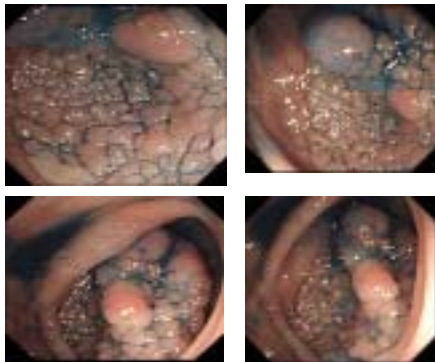
当院では、通常の内視鏡手術では取れない大型の大腸腫瘍に対し、ヒアルロン酸注射液を用いて、**大腸ESD(大腸粘膜下層切開剥離術)**を積極的に施行しております。



消化器内科
石濱活義

手術時間としましては、病変の大きさにもよりますが、1~2時間程度かかります。主な合併症としては、出血と穿孔があります。最近までは、穿孔が起きると緊急開腹手術をしなければならない状況でした。現在は、内視鏡技術も進歩し、穿孔が起きてもまず内視鏡で処置することができるようになりました。まれに腹膜炎を併発する方もいますが、その場合は外科で腹腔鏡手術をし、それでも腹痛が治まらない場合に初めて緊急開腹手術となります。

(Hepatic , LST-G)



(局注・剥離)



(切除標本: 50mm x 30mm)



腹膜炎や外科的手術を避けるためには、前処置と前日の食事が非常に重要になります。ただ全国的にも、緊急開腹手術になった症例が報告されています。私も、これまで70例以上の大腸ESDを施行しましたが、緊急開腹手術まで至った症例はありません。

参考までに、大腸ESDを施行している医療機関をご紹介します。

経験症例数

160 ~ 200	自治医科大学附属病院、虎ノ門病院
100 ~ 110	国立がんセンター - 、徳洲会岸和田病院、山形県立日本海病院
75	東北中央病院
30 ~ 40	国立がん研究所センター -
10	秋田赤十字病院

非常に特殊な技術が必要とされる治療法ですが、当院の理念に基づき診療させていただきますので、お気軽にご紹介していただければ幸いです。

どうぞ宜しくお願いいたします。

〒990-8510 山形市和合町3丁目2番5号
 公立学校共済組合 東北中央病院 病診連携室
 電話(フリーダイヤル): 0120-703-995
 FAX(フリーダイヤル): 0120-168-990